

この連載では、いろいろな業界のご専門の方をお訪ねして、各専門分野とインターネットの関わりについてお話を伺ってきました。今月はこれまでのまとめをしてみようと思います。そして、次号からは多少模様替えをしたいと思います。

## 吉村 伸の インターネットへようこそ!

これまでを振り返って：本誌編集長 井芹昌信

「9か月前には想像もしてなかったような大きな変化がありました。」

井芹：このコーナーでは、これまで6人の各分野のご専門の方をお迎えして、インターネットについて話し合っただけですが、何が一番印象に残っていますか？

吉村：どの話もおもしろかったですよ。ただ、一番びっくりすることは、このシリーズが始まって、わずか9か月くらいですが、インターネットを取り巻く状況がかなり変化したことですね。ですから、最初

の頃に話した話題と、先月話した話題ではポイントがぜんぜん違うんですね。第1回目はニッポン放送の宮本さんでした

が、いま対談をやっていたら、ぜんぜん違う話題になっていたと思いますよ。このときはラジオとインターネットというのは、離れた存在だったんだけど、いまではリアルオーディオなんていうアプリケーションが登場しているわけです。これを見てしまうと、インターネットも音だけだったらいけるよなっていう感じになってきたと思いますよ。あのころは、ラジオはラジオ、インターネットはインターネットっていう感じでしたから。

井芹：そうですね。いまなら本当にラジオ局を作れてしまいますからね。インターネットマガジンのサーバーでもリアルオーディオのサーバーソフトを動かしていますけれども、最近ではちょっとした番組まで作ってしまったりしていますからね。

ところで、この企画を始めるにあたっては、WIDEプロジェクトやIJというインターネットサービスプロバイダーでインターネットを作ってきた「吉村さん」という立場として、これからインターネットに入ってくる人と話すことで、いろいろなおもしろいことが出てくるという思いで始めたわけですが、この企画によって影響を受けたことはありますか？

吉村：実にいろんな人がインターネットを使うようになってきていますよね。その結果、インターネットではあれをしてはいけないとか、これをしてはいけないとかいうことがどんどん薄まってきていますよね。逆にこんなことをしてみたい、あんなことをしてみたいという人がとにかくたくさんインターネットを使うようになってきているわけです。インターネットは「実験ネットワーク」や「学術ネットワーク」という枠組みから抜け出そうとしているのに、一方で「CU-SeeMeみたいなトラフィックを増やすよう



なことをやっちゃ困るんだよね」なんていうことをいってみたい人もいますわけですよ。WIDEプロジェクトでは新しいアプリケーションが出てきてインターネットが足りなくなってきたら、回線をもっと太くすればいいんじゃないのっていう考えなのですが、世の中には批判的な人もいますよね。

ネットワークのリソースというのは有限なんだから、大切に使わなければいけないよなっていうことだから、なんでもかんでもやっつけていいとは思ってないけど、知ったかぶりをして、眉をひそめる人も相変わらずいます。

**井芹：**有限なリソースを有効に使おうとして制限を課すと、何らかの利権が発生しますね。

**吉村：**円満に使うためのルールはいりませんが、それが「非営利」という言葉に抽象化することで、否定的な結論に納めるといことは、もはやなくなったと思います。そして、別の意味での否定的なものが出てくると思いますよ。

**井芹：**アダルトもの話題だとか、原爆の作り方とか、これまでのメディアでも問題になるようなことがインターネットでも起こってきていますよね。

**「WWWがインターネットだ」という人の見方は非常に興味があります。」**

**井芹：**日本のインターネットの前身であるJUNETもそうですが、コンピュータネットワークはコミュニケーションのインフラとして、コミュニティを作ってきたわけですよ。つまり、新しいコミュニケーションのインフラを作ることで人間生活を向上させるということです。

でも、最近ではインターネットが「メディア」になろうとしているときの問題が噴出しているように思います。WWWサーバーが遅いとか、通信と放送の切り分けの問題とか、インターネット上のコンテンツで広告がとれるのかとか、はたまたインターネットは儲かるか、なんていう一連の話題ですね。



**吉村：**インターネットは商用化したけれど、昔からインターネットをやっている人からすると、これは以前からあったものが商用化したと思っているのです。こうした問題は、商用化したから起こった問題

なのではなく、必然として起こっているのだと思います。

昔はコミュニケーションのイ

ンフラとか、知識の共有だとかいって、自分たちは10年前からやってるんだぞっていう人もいるかもしれないけど、昨日からインターネットを始めて、「WWWがインターネットだ」なんていう人の見方は非常に面白いですよ。

**井芹：**吉村さんから、それが面白いという言葉ができるのは新鮮ですよ。自分がインターネットを作ってきたんだって威張ってもいいのにね。

**吉村：**私たちがずっとやってきたことは、つながってよかったね、うれしいねっていうことの積み重ねなんですね。新しいところがつながって、電子メールが届いて、すごいよねということの繰り返しですよ。WIDEインターネットとニフティサーブが繋がったときもそうです。

だから、ぜんぜんインターネットと関係ない人がWWWを使って面白さを知って、さらに面白いことを思い付くっていうのがインターネットの一番面白いところです。

インターネットっていうのは、こう作ってき

たんだから、こうなんだよっていうのはどうでもよくて、それぞれの人がそれぞれのインターネットの面白さとか、驚きとか、喜びとかを感じて、つぎにこんなことをやろうと思って受け入れていくことがインターネットなんだと思います。

**井芹：**それは分かりやすいですね。つながれたことによる感動を求めてきたわけですね。

**吉村：**これからつながる人だけではなく、たとえば私自身も新しい人とつながるわけです。インターネットにつながっていない人がつながるといのは両方からうれしいわけです。

**井芹：**まさに、このコーナーのタイトルのように「インターネットによろこそ」ということですね。

**「インターネット上の個人は何を求めて情報発信をしているんだろう？」**

**井芹：**でもインターネットを体験として分かっている人と分かっていない人がいて、どちらかというに分かっていないの方が社会的な立場が強くて、数も多いわけです。そのギャップっていうのはありますよね。インターネットやコンピュータを使うと便利になるんだよっていう価値観と、インターネットを使うと一体いくら儲かるの？っていうこととのせめぎあいですね。吉村さんの苦勞はそのあたりにあるのでは……。

**吉村：**私の立場でこれをいったらおしまいだけど「インターネットなんて、使いたくなくて使わなくてもいいじゃない」ということですよ（笑い）。

インターネットが使えるというのは、できないよりいいとは思いますが、何かいいのかということをおまえて、インターネットをどうしていくかということを考えていかなければならないと思います。

私たちはインターネットを使うということを特別に意識しないで電子メールを使ったりしますが、それは私たちがたまたまそういう環境にいるからなんですね。確かに、使



【吉村 伸 よしむら しん】  
株式会社インターネットイニシアティブ 取締役  
WIDEプロジェクト ボードメンバー



うと便利だし、ほかではできないということもあるけど、インターネットを使ったら、何がいいのかって言うと、人間が豊かに感じるとか、充足するということにとって、インターネットが必要なのかって改めて問われると、残念ながらそこまではまだ至っていないと思います。

**井芹：**山根一真さんは著書の中で、ネットワークの上で活動していくことの本当の力を知ったとき、それは経済的な価値以外でも成り立つとおっしゃっています。ネットワーク上で商行為が成り立つから使おうではなく、メールなどの手段によって、お互いの充足感が得られるということが、実はビジネス活動することよりも、大事な営みであるというわけです。

**吉村：**ネットワークによって、充足という言葉の意味が変わってしまったわけです。おいしいもの食べられるとか、車を買うとか、家を建てるとかということの充足感ではなくなっています。ネットワークには階層構造ではなくて、ネットワークを通じて、自分と同じことを考えている人とコミュニケーションして、それを別の人に発信していく。これは本が何万部売れてとか、視聴率がどうかとかということと関係なくて、数であらわせるものでもないし、階層構造の上の方を見てどうこうするものでもないですね。つまり、自分の存在を人に示すという欲求なんです。自己のアイデンティティをどうやって自分で確認するのかっていうことです。

**井芹：**既存メディアでは、たとえばアイドルなどの場合は、それがかなり歪みますよね。メディア上で期待される自己と本当の自己の間のギャップに悩んでしまうような人もいるわけです。

**吉村：**インターネットはパソコン通信ほど確立していないから、インターネット上での個人の活動というのは、社会の中で認知されて、評価されるまでにはなっていないと思います。

**井芹：**いままでは、社会のなかでは「私は

A社の誰それです」っていう形で自分を確認していたりするんですが、「自分は趣味でホームページをあげていて、そっちもファンの人がいるんです」っていう部分を持ちはじめた段階ですね。この方向性はきっと流行ると思います。

ところでWIDEプロジェクトの中で個人の自己実現を意識し始めたのはいつ頃ですか？

**吉村：**それは、ネットワークニュースの頃からやってはいます。ただ、ネットワークニュースは共有物であるという認識が強いんです。ニュースグループは誰かのものではないというわけです。でもWWWはその人のものなんです。

**井芹：**ということは、みんなの欲求っていうのは自由なんですか。

**吉村：**自由ということばが適切かどうかわかりませんがね。まだ言葉がない新しい概念かもしれません。

いままでは、世界中に1人とか2人しか面白いという人がいないような情報を発信するっていうことは、リソースの無駄使いだっけいわれていたのです。

**井芹：**しかし、自由に発言できるということは、それに伴う責任がつきまといえますよ。

**吉村：**PL法もそうですけど、ここのサーバーに書いてあるとおりにやったら、こうなってしまった、責任とってくれ、っていうように、責任を追求し始めると、情報を出しにくくなって、つまらなくなるのではないかと思います。

**井芹：**自由に発言することに責任を問わなくてもいいということですか？

**吉村：**そう、見る側の責任じゃないですか？ もちろんこれは難しい問題だと思います。でも、いまのネットワークに流れているものは、見る側の責任ですよ。

**井芹：**発信する側に責任を持たせたら発信

しなくなるけど、逆に見る側に責任を持たせたら、だれも信用しなくなるという危険もありますよ。原理とか原則的にいうと、発信者には何らかの責任が発生してしまうのではないですか？

吉村：そのバランスっていうのは、まだわからないよね。

## 「WWWのつぎは何が出るか？」

井芹：WWWは大流行して、このままいくとWWWがインターネットのすべてになりそうな気配もあります、このつぎのアプリケーションや技術はどのようになるんでしょう？

吉村：ネットワークっていうのは有限なんです。高速ネットワークの技術は出てきていますが、いいところギガビットネットワークで、その3桁上っていうのはありません。ギガっていうと無限みたいに思えますけど、そんなことないんです。こんな程度ではビデオ・オン・デマンドなんてできないですよ。

井芹：でも一般の人が使っている電話回線に比べれば、はるかに快適そうですね。

吉村：でも、WWWは1つのサーバーで世界中にサービスをするということで、ある限界が存在しているのです。結局は人気のあるサーバーにアクセスが集中してしまい、破綻が訪れるのです。つまりWWWというのは、その質のまままでとまってしまうでしょうね。そうすると、つぎはコンテンツの中にネームスペースを持たない情報形態がないと、有限のネットワークを共有することはできません。これはかならず必要になります。みなさんはどう思っているかわかりませんが、ギガビットで何人かの人をさばけるかっていったら、簡単に計算できてしまいますよね。所詮は有限なんです。

## 「計算ずくの安価なサービスを！」

井芹：インターネットサービスプロバイダー

はたくさん出ていますね。そして価格もバラバラです、この状況をどう思いますか？

吉村：最近始めたあるプロバイダーの方と話をしたんですけど、あんまりインターネットに関するビジョンを持っていないですよ。ね。「なんだプロバイダーだったら、そんなに苦労しなくて、機材があればできる」という感じなんです。

井芹：しかし、一番の問題は価格がまだまだ高いということではないですか？ IJの提供しているサービスは品質も高く、専用線のサービスも一定のパフォーマンスを確保しているし、ダイヤルアップも常にかかります。これはすばらしいことだと思いますけど、本当にみんなが利用できるようになるためには、やはりコストが一番重要な要素だと思います。たとえば、数年前にCD-ROMがどうやったら流行るかというとき、いろいろな議論がありましたが、きっかけになったのはコストでした。

吉村：私はそれだけだとは思いません。IJの設備は、昨年以來10億円以上投資しているわけです。常に、最新の機材と最高の技術を投入しています。これでもすぐになりなくなるほどインターネットは成長しています。また、ユーザーも成長しているんです。

井芹：いや、IJの価格の問題ではなくて、技術とスタッフを持っているところが、計算ずくで安いサービスを始めるという方向性もあるのでは、ということです。つまりいままでのサービスの品質を100とするなら、50くらいのサービスのということ。そういうサービスでも十分な人もいるでしょうし、最高のサービスを求めている人もいます。バランスのいい安価なサービスを求めることがインターネットが次のレベルにステップアップするのに必要だと思うのです。

吉村：我々も、そういった議論は社内でも最近しています。

井芹：ユーザーの1人としてぜひ実現してもらいたいですね。



【井芹昌信 いせり まさひつ】  
株式会社インプレス 取締役  
インターネットマガジン編集長





## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)